

愛西市第2次総合計画の 自己評価は

山田 門左工門議員

消滅自治体ではないが、人口減少が高い
企画政策部長



問 愛西市第2次総合計画の自己評価は。

答 財政力指数は、県内38市中37番目、特殊出生率は、県内54市町村中49番目、消滅可能性自治体ではないが、該当する県内2団体に続き人口減少が高い。20代から30代の女性人口が減少。国が進める人口減少の取り組みと連携し、市独自の対策に取り組む。

問 道路、公共施設、公園、教育施設、住宅地整備などインフラ整備を疎かにしたのでは。

答 第1次総合計画では、急激な人口減少の危機感について議論しなかったが、個別施設ごとに計画を示しながら取り組んでいる。

答 過去10年間の実績はない。

答 根拠は。地区検討協議会、保護者説明会、座談会、意向調査、パブリックコメントなどの意見と合わせ望ましい学校の在り方を教育委員会で協議した。

問 一宮西港道路の計画は、3案提示されているが、どんな働きかけをしたのか。

問 地区検討協議会ではこの計画案を認めていない。昨年の座談会のアンケートでは反対が多い。計画書に反対する立田地区の署名は1250名、永和地区の反対署名も千名を超えている。パブリックコメントは80%が反対意見である。文科省も住民との合意形成を求めている。愛西市議会の3会派も住民との合意形成を求めている。この事実を無視して進めるのか。

問 一宮西港道路は、中央道、155号線及びその中間に設置する3案があるが、本市は国に早期開通としか要望していない。なぜ155号線の計画案を要望しないのか。

問 本年3月に第2回総合教育会議で基本計画案から一歩進んで実行に移すことになったが、その

答 国に早期の事業着手をするよう要望していく。

答 国、県、協議会構成団体の思いはあるが、機会を捉え市の考えを伝えていく。

根拠は
学校規模適正化
基本計画決定の

答 地域住民からの更なる理解と協力を得ていきたい。



▲一宮西港道路の計画が3案示されている